



どうぶつこうえん ニュース

No.77
2010
autumn

おかげさまで千葉市動物公園は開園25周年

25th Anniversary
1985-2010
Chiba Zoological Park

動物



と私

4月に千葉市動物公園に着任して、園内巡視で雉やギンケイ、野鷄等を見ては動物の世話をする父親の嬉々とした姿を思い出しました。

昔の我が家では、小さな池にはコイが泳ぎ、ヒバリやホオジロなどの野鳥からカナリア、インコ、キンケイ、ギンケイ、雉、チャボ、軍鶏、ガチョウ、孔雀などさまざまな鳥類が室内や屋外の鶏舎でさながら鳥獣店のように、父親の手により飼育されていました。私も弟と二人でレース鳩を飼育したこともありました。

父亡き今では、鶏舎だった建物は犬舎や物置に変わり、鳥も魚もいなくなりました。また、近所の農家で牛や鶏を目にするこも、今は全くなくなりました。

現在の私にとって、健康の維持と近所の方々とのコミュニケーションを図るうえで、犬の散歩は必須アイテムとなっています。愛犬は今年で8歳になりましたが、一生を共有する家族として、大切に飼育し続けようと考えています。

国内のペット数は、ペットフード協会の推計では「犬や猫の飼育数は約2千7百万頭と日本の未成年者数を上回っている」そうです。家族の一員として大切に飼育されているペットがいる反面、捨てられる犬や猫、野良猫問題、飼い主と近隣住民とのペットトラブル等々も報道されています。

今年の4月20日に宮崎県で口蹄疫の第一例が発生し、牛や

千葉市動物公園園長
岡田 進



豚などの家畜が約28万9千頭殺処分され、ウイルスに感染する恐れのある動物を飼育する全国の家畜農家や動物公園等を震撼させました。

世界的に発生した牛海綿状脳症（BSE）や鳥インフルエンザでは、多くの牛やニワトリが殺処分され、食卓に影響があったことも記憶に新しいところです。

自然界では地球の温暖化や環境変化により、野生動物の減少や奇形個体の出現、異常な行動等が報道されています。童謡にも歌われ、日本人に親しまれているスズメの減少もその一例ではないかといわれています。

さて、今年で開園25周年を迎えた千葉市動物公園では、世界的に絶滅が危惧されるゴリラから幼児でも触れることのできるハツカネズミまで、哺乳類66種433点・鳥類71種306点など総計145種771点を飼育展示しています。さまざまな動物をご覧いただき、環境問題や生物多様性、動物の生態などに思いを回らせ、愛嬌のある動きに心を癒していただければと思います。

“憩い、学び、体感”できる身近な動物公園をめざしてまいりますので、皆様のご来園を心よりお待ちしております。

目次

CONTENTS

- 表紙【アビシニアコロブス】…………… ❶
- 動物と私…………… ❷
- ツノの話…………… ❸
- 動物分類の話…………… ❹
- サマースクール…………… ❺
- 飼育よもやま話…………… ❻
- 動物公園の動物…………… ❼
- 動物公園日誌から [10.4/1～10.6/30]… ❽
- サポーター会員募集のお知らせ…………… ❾
- Information…………… ❿

表紙の動物説明 アビシニアコロブス

当園では、2亜種のアビシニアコロブス（クロシロコロブス）を飼育展示していますが、分類的には、サル目（霊長目）、オナガザル科、コロブス亜科、コロブス属（4種）、アビシニアコロブス（4亜種）という位置づけです。この4亜種は、尾の形状で、尾の半分がふさふさと白い基亜種（分布域 エチオピア南東部からケニア）と尾の殆どが黒く、先端に白いふさふさのあるコンゴコロブス（分布域 カメルーン、ガボンからコンゴを経てウガンダ）、尾の殆どが白いふさのキクユコロブスとキリマンジャロコロブス（分布域 ケニアからタンザニア、ウガンダ）と大方の見分けが出来ます。

コロブスは、手に親指がなく、その名は、ギリシャ語の「コロブス」ーちぎれたを意味するーに由来しています。また、コロブス類の胃は特殊で、二つにくびれて酸を分泌する部分と中性に保たれる部分に分かれ、後者の部分で葉をバクテリアで発酵することにより効果的に葉を消化することを可能にしています。

表紙の写真は、2亜種のうちのコンゴコロブスです。この個体は、第一次開園時、ウガンダ共和国より寄贈された個体の子どもです。

小林 正典 (KOBAYASHI MASANORI)
撮影：宮川 千尋 (MIYAKAWA CHIHIRO)

動物飼育数

平成22年6月末現在の飼育数

哺乳類 66種433点

鳥類 71種306点

爬虫類 6種 29点

両生類 1種 2点

魚類 1種 1点

総計 145種771点

ミンゴの話

ツノは漢字で角と書き、主に頭にある突起物を指します。カブトムシなどの昆虫、カメレオンなどの爬虫類にツノはありますが、鳥にはほとんどありません。鳥にはツノは空を飛ぶためには余分な重さになり、かつ必要がなかったのでしょう。哺乳類では蹄（ひづめ）をもつ動物によくみられます。ツノは主に闘争（特に同種類）や捕食者に対する防衛の武器として使われます。

哺乳類のツノは大きく分けてシカにはえるアントラー（antler、枝角一えだつの）、サッカーのJリーグの鹿島アントラーズの“アントラー”です。もうひとつはウシなどにはえるホーン（horn、洞角一ほらづの）です。管楽器のサキソホーンの“ホーン”で、角笛（つのぶえ）が管楽器の起源です。

まずアントラーについて説明します。アントラーはキバノロを除くシカ科（40種類弱）にしかはえませんが、小型のマメシカやジャコウシカの仲間には角がないかわりに、牙（キバ）があり、攻撃や防衛に使います。アントラーは頭骨の上部に角のはえる突起（ペンディクル）を土台にしてはえてきます。毛でおおわれたこぶ状のものが徐々に長く伸びて枝分かれしていきその中で角がつくられていきます。この時期の角を袋角（ふくろづの）といいます。シカの角特有の枝分かれした角は大体春から夏にかけて4~5ヶ月で成長を終えると、角には血液や栄養が行かなくなり、皮膚は枯れて剥がれ落ち、硬い骨状の角が出現します。キョンなどの棒状の小さな角を持つ種類はキバも生やしています。



トナカイのオスの角（アントラー）

シカの角はトナカイを除いて、オスだけにしかはえませんが、秋になるとメスたちが発情し、交尾期になります。オスたちは骨状になった角を闘争に使い、角で体の押し合いをし、優劣を決めます。角の小さいオスは大きいオスにいとむことはほとんどなく、角の大小（体の大小と相関している）により戦う前から優劣が決まっています。

角の大きさが同じ位のオスは並んで角を誇示したあと、角突きに入ります。たいてい数分で勝負がつき、負けたオスは後から角で突かれられないように、大急ぎで走って逃げます。勝ったオスはメスたちが多くいる場所を占有し、たくさんのメスと交尾するチャンスに恵まれます。角が大きいオスほど多くの子孫を残せるということです。交尾期が終わると角は必要がなくなり、冬に角を落とします。頭の骨と一体化していた角は剥離層ができて、たいていその日のうちに2本とも落ちてしまいます。ちょうど夏には強風でも落ちなかった木の葉が秋に自然と落ちるのと同じ様な感じです。角のとれたペンディクル上部は最初に赤い組織が見えますが、5~6日で毛の生えた黒っぽい皮膚におおわれます。



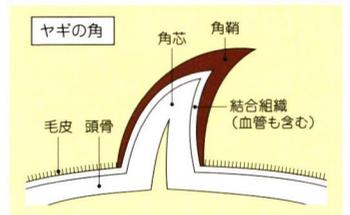
二ホンシカの角（アントラー）基部の断面
角と骨の境い目が見えない

産まれたその年（たいてい春に産まれる）は角は生えず、ペンディクルが発達した2年目から角が生えてきます。最初は1本の棒状の角（ごぼう

に似ているのでゴンボツノといえます。）のケースが多く、年齢とともに毎年はえる角は枝の数が増え大きくなり性成熟するころにはりっぱな角になります。角の主成分は骨と同じ、リン酸カルシウムです。トナカイのメスに角が生える理由はシカの仲間でも最も環境の悪いユーラシア、カナダの北部に住んでいるので、エサの取り合いで優位になるためだと考えられています。オスは冬に角が落ち、メスは春から夏に落ちるので、冬から春はオスより優位になります。おなかの中で子どもが成長する時期と一致します。ツノは毎年落ちて回収できますが堅く加工しにくい為、ボタンやナイフの柄などにしか利用されません。当園ではアントラーをもつ動物はトナカイしかいません。

次にホーンの話をしていきます。ホーンはウシ科（130種類弱）のすべての種類に見られます。ウシ、アンテロープ類などがいます。当園ではウシ、ヤク、スイギュウ、アメリカバイソン、ムフロン、ヤギ、シロオリックス、シタツツガが展示されています。

ホーンが「オスだけしかはえない種類」、「オス、メス共にはえるが、オスの方が大きい種類」、「オス、メスとも同じ大きさの角をもつ種類」があります。



ホーンは頭の骨から角の骨（角芯）が突起し、それにかぶるように角（角鞘一かくしよう）がくっつき、成長していきます。角は爪や毛を作るケラチン（角質）というタンパク質が主成分です。そのためシカの角より柔らかいため、加工して印鑑などに使うことができます。産まれた時はありませんが、成長とともに角が生え、オトナになるまで、大きくなります。その後は少しずつしか伸びません。角（角鞘）がぬけるケガの場合は少しずつ角がつくられていきますが、角芯、特にその基部で折れると、大きなケガになり、死にいたる場合もあります。

ホーンは枝分かれしたものはありませんがいくつかの形に分けられます。太くしっかりした月型のホーン（ヤク、スイギュウ、バイソンなど）、細長いサーベル型のホーン（カモシカ、シロオリックスなど）、太くカールしたホーン（ムフロンなど）、らせん状に長く伸びたホーン（マーコールなど）などがあり、これらの中間型のホーンもあります。ホーンはオスにもメスにある場合が多いですが、たいていはオスのほうが大きくなります。オスはなわばり防衛や順位争いにホーンを見せびらかすディスプレイをします。それでも勝負がつかないときはホーンを使った闘争になります。オス、メスともホーンは捕食者に対する防衛にも使います。

他に角芯からホーンがはえるが、毎年落ちてはえかわるブロングホーンの角、海線状の骨が突起して毛皮におおわれたキリンの角、繊維状の組織のまわりを硬い皮でおおわれたサイの角があります。

宝川 範久 (TAKARAGAWA NORIHISA)



動物分類の話

表紙の動物説明のコーナーでたびたび動物の分類について触れてきましたが今回は、哺乳類・鳥類についてまとめてお話ししますが、文章では解りづらいと思いますので、別表のようにしてみました。

まず、分類は、世界統一の学名で判断します。従って、和名や英名は俗名と言って一つの動物でも色々な呼ばれ方をしていますので、正しいのは一つだけということではないわけです。ワシントン条約では、法律の主旨が過度の国際取引を規制するものですから、生物学的なことは必要なく全て学名の頭文字がAから始まります。よって、哺乳類は、ウシ目 (ARTIODACTYLA)、鳥類は、カモ目 (ANSERIFORMES) から始まります。IUCN (国際自然保護連合) では、通常我々が見慣れた分類順になっています。昨今の遺伝子解析レベルがアップして、当園で飼育展示している動物について例をあげると、今までアライグマ科であったレッサーパンダが、レッサーパンダ科として独立したり、貧歯目では、ミナ

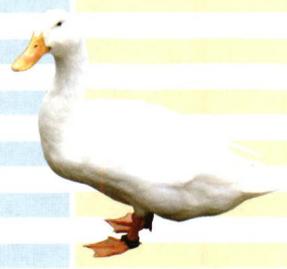
ミコアリクイ、フタユピナマケモノ、ムツオピアルマジロであったものが、有毛目と被甲目に分けられたり、マーモセット科、ゲルディ科、オマキザル科が、オマキザル科に統合され、クモザル科が新設されたり、また、大型類人猿が、ショウジョウ科であったものがヒト科に変わったりしています。カワウソ類もイタチ科ひとくくりでしたが、カワウソ亜科に細分化されています。さらに、食肉目と言われていたものが、ネコ目と呼ばれるようになりましたが、ネコ目イヌ科はさすがに違和感がありますね。

それぞれ、このような呼称には命名した学者の根拠が在るわけですから、どちらが間違いでどちらが正しいという問題ではないと思います。当面は、サル目 (霊長目) というように、併記形式で表示するのが一番解りやすいのではないのでしょうか。

小林 正典 (KOBAYASHI MASANORI)

千葉市動物公園 分類表対照表

哺乳綱		鳥綱	
旧	新	旧	新
有袋目	カンガルー目	ダチョウ目	ダチョウ目
カンガルー科	カンガルー科	ダチョウ科	ダチョウ科
貧歯目	有毛目	ヒクイドリ目	エミユウ科
アリクイ科	オオアリクイ科	エミユウ科	
フタユピナマケモノ科	(コアリクイ属) フタユピナマケモノ科	ペンギン目	ペンギン目
	被甲目	ペンギン科	ペンギン科
アルマジロ科	アルマジロ科	コウノトリ目	コウノトリ目
翼手目	翼手目	サギ科	サギ科
オオコウモリ科	オオコウモリ科	ハシビロコウ科	ハシビロコウ科
霊長目	サル目	コウノトリ科	コウノトリ科
キツネザル科	キツネザル科	トキ科	トキ科
ロリス科	ロリス科	フラミンゴ科	フラミンゴ科
ガラゴ科		ガンカモ目	カモ目
マーモセット科	オマキザル科	ガンカモ科	カモ科
ゲルディー科		ワシタカ目	タカ目
オマキザル科		ワシタカ科	タカ科
	クモザル科	キジ目	キジ目
オナガザル科	オナガザル科	キジ科	キジ科
テナガザル科	テナガザル科	ツル目	ツル目
ショウジョウ科	ヒト科	ツル科	ツル科
食肉目	ネコ目	ハト目	ハト目
	レッサーパンダ科	ハト科	ハト科
アライグマ科	アライグマ科	オウム目	オウム目
イタチ科	イタチ科 (カワウソ亜科)	インコ科	インコ科
マンゲース科	マンゲース科	フクロウ目	フクロウ目
アシカ科	アシカ科	フクロウ科	フクロウ科
長鼻目	ゾウ目	キツツキ目	キツツキ目
ゾウ科	ゾウ科	ゴシキドリ科	ゴシキドリ科
奇蹄目	ウマ目	オオハシ科	オオハシ科
ウマ科	ウマ科	スズメ目	スズメ目
バク科	バク科	ヒヨドリ科	ヒヨドリ科
偶蹄目	ウシ目	コノハドリ科	コノハドリ科
イノシシ科	イノシシ科	ハタオリドリ科	ハタオリドリ科
ラクダ科	ラクダ科	コウライウグイス科	コウライウグイス科
シカ科	シカ科		
キリン科	キリン科		
ウシ科	ウシ科		
齧歯目	ネズミ目		
リス科	リス科		
ビーバー科	ビーバー科		
ネズミ科	ネズミ科 (ネズミ亜科)		
テンジクネズミ科	テンジクネズミ科		
カピバラ科	カピバラ科		
パカ科	パカ科		
チンチラ科	チンチラ科		
兎目	ウサギ目		
ウサギ科	ウサギ科		





サマースクール summer school

7月21日～23日に
第26回
サマースクールが
開催されました。

他の地域では梅雨明けが遅れる中、千葉では梅雨明け前から晴れが続き、サマースクール当日は近年にない暑い日が続きました。参加した子供達も汗をタオルで拭きながら飼育作業をがんばってくれました。3日間で総勢125名の小学3～6年生の子が飼育体験を通じて動物とふれあい、働くことの大変さを経験できたのではないのでしょうか。



おっかなびっくり
ゾウガメにエサやり。



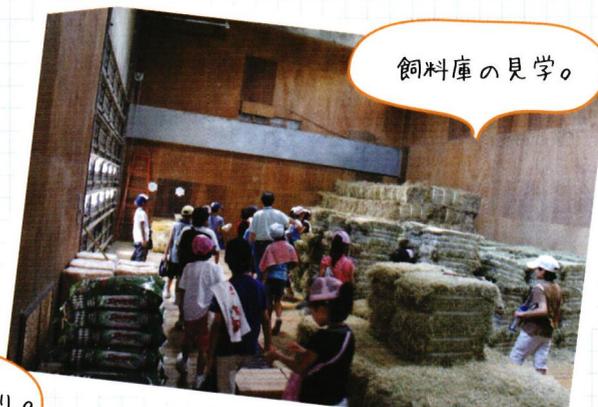
動物舎の掃除。



洗浄機を使って
汚れを落とします。



飼料庫の見学。



動物の食事作り。



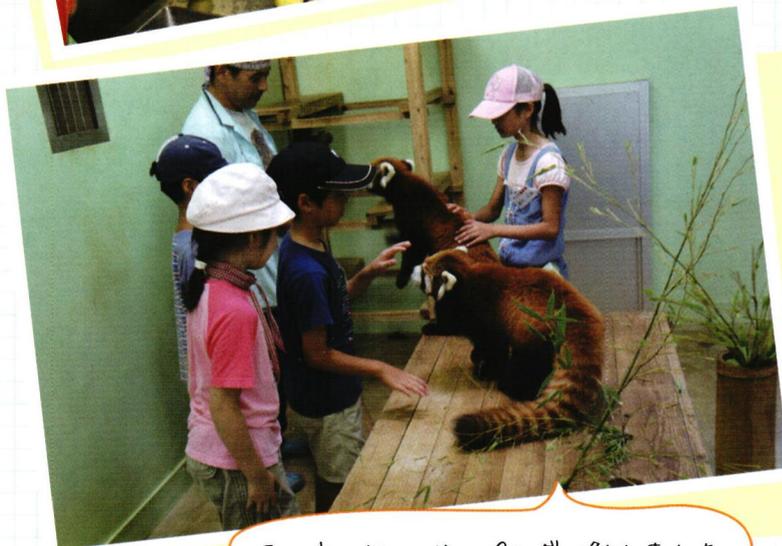
全員でお昼ごはん。



記念のバッジ作り。



ラッキー!レッサーパンダに触れました。





飼育よもやま話

アシカのためにガンバルぞ!

こんにちは！飼育係3年生の石田です。今年の4月にアシカの担当になりました。

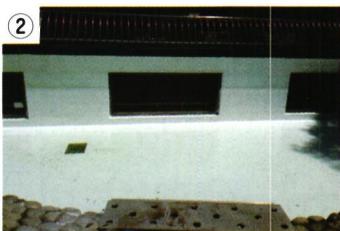
今日はアシカのプール掃除についてお話したいと思います。

アシカのプールは、2週間に1回、火曜日に掃除しています。広ーいプールにはたくさんの水が入っていますから、1日では水を抜き切れません。前日の夕方から抜き始めます。水が全部抜け切った掃除前のプールはこんな感じ(①)です。コケで茶色くなってしまっています。



これをデッキブラシでせせとこすり、次亜塩素酸という、人間用のプールにもよく使用している薬をかけます。

それでもまだ、ガンコな汚れは残っています。それをまたデッキブラシでごしごしこすり、みなさんがアシカを見るガラスを、お皿洗い用の洗剤で磨き、はい、おしまい。(②)



綺麗になったら水を溜めるのですが、大きなアシカのプールが一気に水を溜めたら、他の動物が水を使えずに困ってしまうので、少しずつ、2日かけて水を溜めます。

書いてみると簡単ですが、実際やるととても大変です。夏なんか、汗だく。

それでも綺麗になったプールで気持ちよさそうに泳いでくれるアシカを見ると、やってよかった!と思います。

ちなみに、掃除中のアシカ達は、こんな風にプールの上へ上がって「まだ終わらないの?」という風に私を見下ろしています。(③)

そんな光景が見たければぜひ、火曜日の開園直後にアシカのプールへいらしてくださいね。応援待ってます!(笑)

石田 郁貴 (ISHIDA YUKI)



動物公園の動物

オニオオハシ

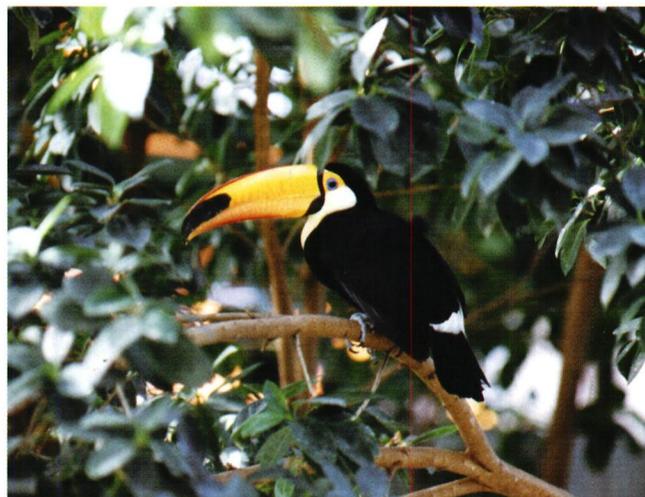
動物科学館内にあるバードホールは熱帯雨林を再現した施設で現在12種類の鳥類と4頭のナマケモノが熱帯植物の生い茂る温室の中に放し飼いにされています。その中で特に目立つ鳥が2羽のオニオオハシです。あまり聞きなれない名前かもしれませんが写真を見れば、見たことがあると思う方が多いのではないのでしょうか。

オニオオハシは中央アメリカのメキシコ南部からアルゼンチン北部までの熱帯雨林や、それより開けた疎林に分布しています。あまり群れを作ることはなく2~10羽で、木の高い所を好み生活しています。オスとメスでは外見上の区別はなく見分けはつきません。大きさは全長65cmでそのうち20cmを嘴(くちばし)が占めます。オニオオハシの一番の特徴はこの嘴で先端は黒くその後ろは赤みがかったオレンジから黄色にグラデーションがかかり、カラフルに彩られています。この嘴はいかにも重そうに見えますが実はそれ程重くはありません。嘴は薄い角質のさやになっており中は中空で薄い骨質の支持棒が多数張り渡されスポンジのようになっています。

また嘴の役割ですが、体温調節の為とか求愛行動の為とも言われていますが、体に対してここまで大きな嘴が何のためにあるのか実はよく解っていません。食物はおもに果実類ですが昆虫やトカゲ、小鳥の卵とヒナなども食べます。

当園のオニオオハシはバードホールの中でも2階よりも高い所に居ることが多く、比較の見つけやすい鳥ですので、ぜひ探してみてください。また毎日午後2時15分前後にスコールを降させます。その時には4頭のナマケモノもよく動くことが多いので、こちらも探してみてください。1頭は難易度が高いので3頭見つけられればラッキーだと思います。

中村 智行 (NAKAMURA TOMOYUKI)





動物公園日誌から

'10年4月1日～'10年6月30日

- 4月2日 プレーリードッグ、巣箱より朝、仔の鳴き声が聞こえる。アフリカヘラサギ、雛が巣立つ。午前中から巣より出て止まり木に止まる。
- 4月3日 ヒワコンゴウインコ、計4卵を抱卵中。「NPO法人 都川の自然を考える会」飼育のシバヤギが角を折られて、多量に出血しているため、緊急的に保護し治療を行い、預かる。
- 4月5日 フサオマキザル(1頭)、繁殖。
ニシゴリラ(ローラ、雌)、発情。お尻を何度も床に叩きつけたり、お尻を向けてくる。
- 4月6日 フサオマキザル(雌)、仔を背中に背負って落ち着いている。
- 4月9日 アフリカハゲコウ、本日より基本的に夜間も屋外で飼育する。
- 4月10日 ヒロハシサギ(雛)、本日より給餌はバットより行う(採食確認)。
- 4月12日 ウサギ(フレミッシュジャイアント)、オシドリ、アカハシハジロ、ヨシガモ、オナガガモ、マガモ検疫明け。
- 4月16日 カピバラ(雌)、死亡(心嚢水腫)。
- 4月18日 ヒワコンゴウインコ(1羽)、繁殖。
ワンポイントウォッチング(オランウータン)。
- 4月21日 アフリカハゲコウ(雌)、右足環取り換える。
- 4月22日 レッサーパンダ、昨日設置の吊り橋を早速クウタが渡っていた。
- 4月23日 ムフロン(ハジメ、雄)、収容時、歩行困難になり予備室に収容する。その後、餌もよく食べるので様子を見る。
- 4月24日 **オオカンガルー(1頭)、繁殖。**

- 4月25日 クロミミマーモセット(1頭)、繁殖。
ヒワコンゴウインコ、雛がもう1羽いるのを確認する。
エジプトハゲワシ舎、完成記念イベント実施。
- 4月26日 グレビーシマウマ(キサラギ、雄)、姫路セントラルパークに搬出。
- 4月27日 プレーリードッグ(2頭)、繁殖。
フクロテナガザル、昨日、設置した消防ホースをよく利用している。小屋にも入っている。
- 4月28日 マレーバク(雌)、昨日、餌を半分以上余り。排便もなかったため放飼せずに温める。朝は水をかけても排便せず。夕方は排便するが、若干固めであった。
- 4月30日 クロザル、流産。
- 5月1日 ヤギの広場に口蹄疫対策として、踏み込み消毒マットを設置。
マレーバク(雌)、寝室、排便あり、青草はほぼ完食する。
キャベツ、木の葉は残餌あり。
- 5月2日 ムフロン(雄)、死亡(出血性腸炎)。
ニホンリス、繁殖。朝、乳房の目立つ個体が仔一頭をくわえ、動き回る。新たに巣箱を2個設置する。仔は3頭らしい。
- 5月4日 フタクビナマケモノ(仔)、13:00から15:00、バードホールに放す。
- 5月7日 ジェフロイコモザル(雌)、死亡(子宮腫瘍)。
- 5月10日 ヒツジ、ヤギ、全頭体重測定。
オグロプレーリードッグ、性別確認、体重測定。
- 5月11日 ムフロン(雄)、死亡(出血性腸炎)。
- 5月13日 シロガオマーモセット(1頭)、繁殖。
オグロプレーリードッグ(雄1、雌2)、江戸川区自然動物園へ搬出。
- 5月15日 飼育係によるお楽しみDAY実施(ダチョウ)。
ヒワコンゴウインコ、先に孵化した個体、完全に目が開く。
バードウィーククラブ教室開催。

5月16日

サポーターズデイ開催。



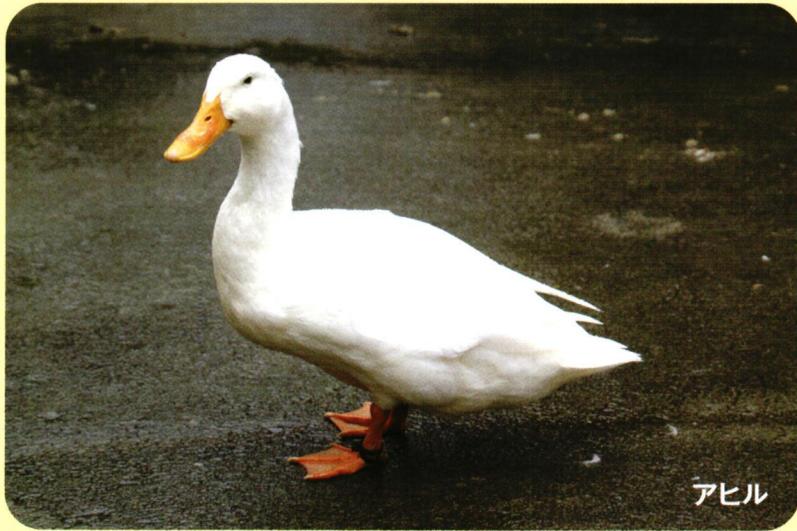
- 5月17日 ホンドザル、雄7頭を雌群れと一緒にする。
- 5月18日 シロガオマーモセット(2頭)、繁殖。
- 5月19日 トナカイ(雌)、釧路市動物園へ搬出。
- 5月20日 シロガオマーモセット(2頭)、繁殖。
- 5月21日 フタクビナマケモノ(仔)、午前天井のキャットウォークにいて11:00頃から呼吸が速くなって鼻がぬれていた。回収し屋内展示場へ収容する。水を飲ませてしばらくすると落ち着く。展示はしばらく見合わせる。
- 5月22日 パタスザル(仔)、マイクロチップ挿入および性別確認(雌)。
親子飼育体験開催。
- 5月23日 フタクビナマケモノ(仔)、本日より再びバードホールに放す。
- 5月24日 フタクビナマケモノ(仔)、朝ダクトの上において、キーパーが近づくと頼り寄ってくる。中段のキャットウォークの木の近くに連れて行く。
- 5月25日
- 5月30日 ワンポイントウォッチング(シジュウカラガン)。
飼育実習生(東京コミュニケーションアート専門学校)。
第9回大人の飼育体験実施。
- 6月1日 ヒツジの毛刈り教室開催。
- 6月6日
- 6月7日 ニホンリス、夕方仔が2頭出ていた。
- 6月8日 チンパンジー(ナーサ、雌)、死亡(肝臓腫瘍)。
- 6月9日 ワタボウシパンシェ(2頭)、繁殖。
ファンボルトペンギン(1羽)、死亡。
- 6月10日 オオカンガルー(仔)、袋から出るようになる。
- 6月11日 ワタボウシパンシェ(仔)、11:00頃仔が1頭下に落ちていたので、回収し保温、哺乳後展示場に戻すと親が引き取りにくる。
- 6月13日 ワタボウシパンシェ(仔)、1頭死亡していた。
ファミリーシアター開催。
- 6月14日 **アフリカハゲコウ、放飼場中央に巣台を再設置する。**

- 6月17日 プレーリードッグ、放飼場にカラス除けのネットを張る。
- 6月18日 グレビーシマウマ(シスカ、雌)、左前肢の蹄壁がめくれ上がっている。
- 6月19日 ZOOキッズデー開催。
- 6月20日 グレビーシマウマ(シスカ、雌)、左前肢の蹄壁のめくれ、はがれてとれた様子。以前より良く走る。
ワンポイントウォッチング(ハシビロコウ)。
- 6月27日 クロザル、屋外展示場の消防ホース、2本を残し撤去する。
- 6月28日
- 6月30日 職場体験(千城台西中学校)。

編集後記

当初の冷夏予報を覆し、梅雨明けと同時に猛暑が始まり、今夏は、さすがの動物たちもちょっぴりバテ気味? 当園では25周年の様々な企画が進んでいます、この暑さのせいが入園者が伸びないのが頭の痛いところです。7月中旬には、待望の手作りによる「都川いきもの広場」がようやく一般公開され、中央広場の噴水と併せて涼を求めて見学される方々もおり、今までは少し違う動物公園を楽しんでいただけることを期待しています。11月には市民参加のちばZOOフェスタ2010を開催いたします。コスプレでのご来園の方は、入園料無料になります。その他、秋の動物公園は楽しみ満載です。ぜひお出かけ下さい。

どうぶつこうえんニュース編集委員



アヒル

動物取扱業者標識	
①氏名又は名称	千葉市
②事業所の名称	千葉市動物公園
③事業所の所在地	千葉市若葉区源町280
④動物取扱業の種類	展示
⑤登録番号	第50015号
⑥登録年月日	平成19年7月30日
⑦有効期間の末日	平成24年7月29日
⑧動物取扱責任者	飼育課長 小林 正典



千葉市動物公園
Chiba Zoological Park

サポーター会員募集

(財)千葉市動物公園協会では、動物に関する知識と動物愛護の精神を普及することを目的に「サポーター会員」を募集いたします。

年会費(入会日~翌年入会月末)

個人会員 1口 1,000円

法人会員 1口 10,000円

オリジナルグッズ
プレゼント

サポーターズデイに
無料で招待

お問い合わせは ☎043-252-1111

法人サポーター会員 (順不同)

- 利根ココロラボトリング(株)
- 玉山商会
- 関東フローズン(株)
- 日東パシフィックベンディング(株)
- (株)石綿竹松商店
- (株)AQUA
- (株)シューエイ商行
- 伸光エンジニアリング(株)
- 千葉市建設コンサルタント協会
- (株)環境技研コンサルタント
- (株)久世
- (株)的場
- 千年杉建設(株)
- (株)伊藤工務店
- (有)三栄舗装工業
- 千星会
- 西原工業(株)
- (社)千葉市観光協会
- (株)西原テクノサービス東関東支店
- (株)さわらび
- 大西総業(株)
- 千葉都市モノレール(株)
- (株)動物公園協会の会
- 千葉県米穀(株)
- ジェノスグループ(株)
- エバタ株式会社
- (財)千葉市国際交流協会
- (株)ニッセイアド
- (有)久野インターナショナル
- (有)カンダ事務機
- 関東フローズン(株)千葉支店
- (株)新星医薬商事
- (株)小柳組
- 中田屋株式会社 千葉工場
- 千葉商工会議所
- (株)加藤緑花土木
- (株)和光物産商会
- ノザキ建工(株)

(22年7月現在)



Information

平成22年9月~11月の催し物一覧

9月12日 日 ワンポイントウォッチング④(オオカンガルー)

9月23日 祝 動物愛護週間イベント

10月2日 土 写真教室

10月10日 日 ワンポイントウォッチング⑤(プレーリードッグ)

10月24日 日 秋の講演会

11月3日 祝 ZOOクイズラリー

11月6日 土・7日 日 ちばZOOフェスタ2010

詳しくは <http://www.chibazoo.net/> までどうぞ

どうぶつこうえんニュース第77号
平成22年9月1日発行

編集
発行

千葉市動物公園 <http://www.city.chiba.jp/zoo/>
(財)千葉市動物公園協会 <http://www.chibazoo.net/>
〒264-0037 千葉市若葉区源町280番地 280 Minamoto-cho Wakabaku Chiba-city Japan.

【総合案内】☎043-252-1111